

日本人はいかに生きたか—日本仏教・武士道

国際言語文化学科 木澤 景

●連絡先 TEL 054-264-5331



日本仏教, 武士道, 倫理学, 修行, 天台思想, 浄土思想, 念仏, 覚悟, 敵討

日本仏教や武士道を題材に、かつての日本人が自分の人生をいかなるものと捉えてそれぞれの生を営んだかという倫理学的研究を行っている。とくに、「修行」をキーワードに、修行者が何を目指し、何を己に課して日々を生きたかに注目している。かつての日本人の人間観や世界観をふまえ、今日に生きる我々との違いや通底する要素を浮かび上がらせる事により、現代人の生についても普段意識されない方面から光をあてることを目指している。研究テキストは、地獄・極楽の記述で有名な源信（942-1017）の『往生要集』や、「武士道と云は死ぬ事と見付たり」の語がよく知られている山本常朝（1659-1719）口述の『葉隠』などを中心に扱っている。研究テーマは仏教では天台思想、浄土思想（念仏）、武士道では覚悟や敵討の問題などである。

